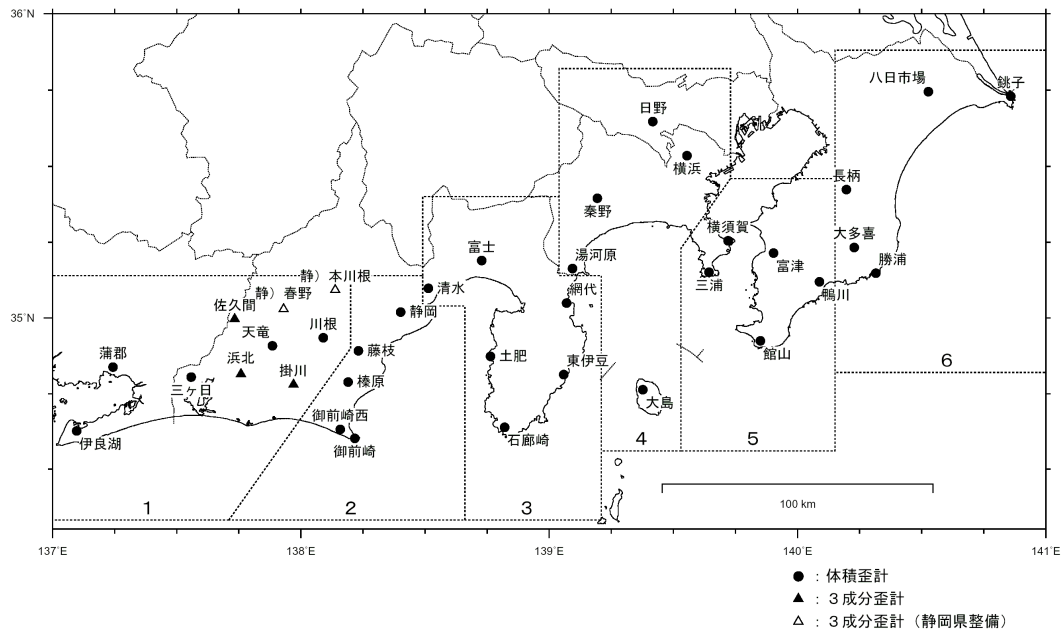


2. 地殻変動変動に関する資料

- 気象庁の体積歪計と3成分歪計（埋込式歪計の配置図：下図）

埋込式歪計の配置図



3～5頁：体積歪計

9月5日および7日に紀伊半島沖・東海道沖の地震によるコサイスミックなステップが見られた。一部の地点で10月中旬以降に見られる変化は、その前に降った雨の影響によるものである。

三ヶ日 2004年7月18日以降に見られる縮みとその後の回復の変化は、毎年夏になると見られるもので、水位の変化と相関があり、並行観測している旧観測点でも同様の変化が見られる。

静岡 5月下旬からの伸び変化は、例年見られるものである。

東伊豆 2004年4月24日～5月2日にかけて伊豆半島東方沖の群発地震活動に伴う縮み変化。

6～15頁：3成分歪計（掛川、春野、佐久間、本川根、浜北）

9月5日および7日に紀伊半島沖・東海道沖の地震によるコサイスミックなステップが見られた。

本川根 2004年11月1日に局所的な変化が見られた。

浜北 2004年6月20日以降、歪1のセンサーのごく近傍で局所的な縮み変化。

16 頁：平均的な地殻変動からのずれ（大潟固定）＜国土地理院資料＞

上の図：2001年3月27日～2005年4月2日までの新潟県大潟町のGPS点(950241)に対する平均的な地殻変動からの水平方向のずれを示す。東海地方から名古屋付近にかけて南東方向に変動する領域が見られる。

下左図：水平成分と同じ期間の上下方向のずれを示す。浜名湖の北東側に隆起の領域が見られる。

下右図：1998年1月～2000年1月の新潟県大潟町のGPS点(950241)に対する定常的な地殻変動。

17～18 頁：1年間で見た東海非定常地殻変動（大潟固定）＜国土地理院資料＞

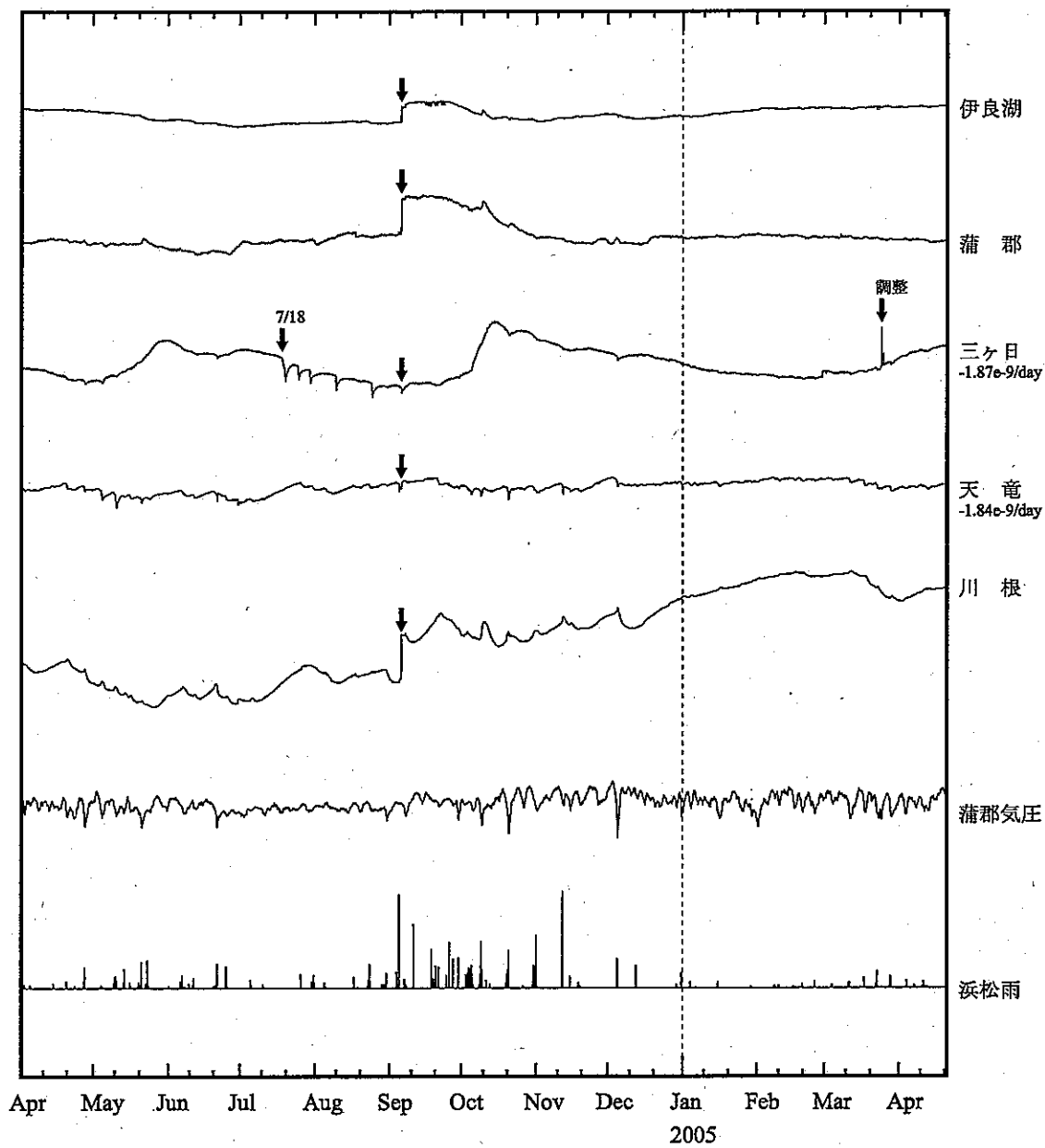
（1）は2000年10月～2001年9月、（2）、（3）、（4）、（5）はそれぞれ、2001年、2002年、2003年、2004年1年間の変動を示し、（6）は最新の4月1日までのばしたデータで同様に1年間の変動を見たもの。

上記以外の地殻変動データ（傾斜変化、地下水変化など：国土地理院、防災科学技術研究所、産業技術総合研究所）にも、特段の異常なし。

地殻体積歪変化 時間値 (第1区)

・気圧, 潮汐, 降水補正データ

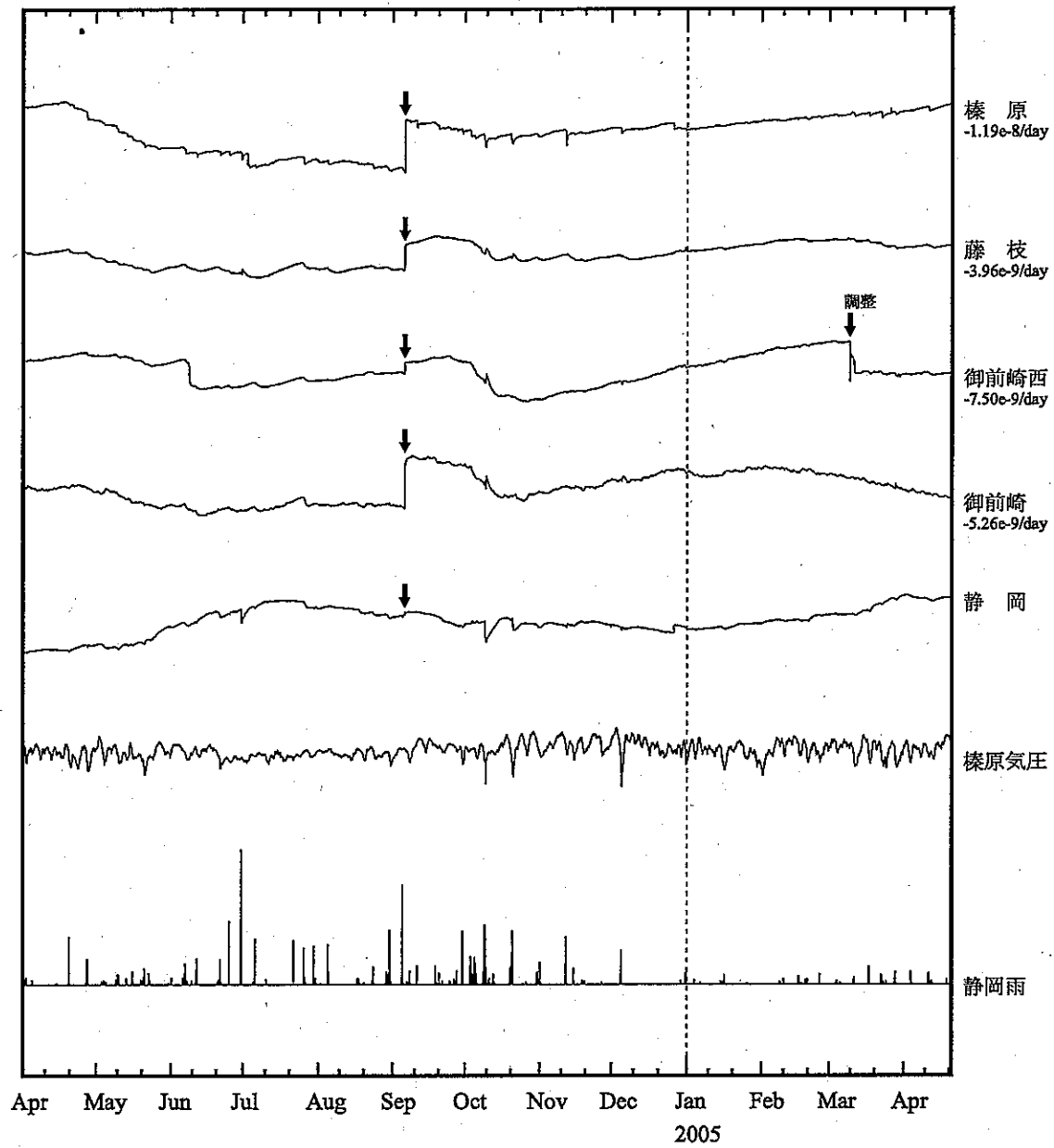
Exp.
↑ 2.0e-07 strain
30 hPa
20 mm



地殻体積歪変化 時間値 (第2区)

・気圧, 潮汐, 降水補正データ

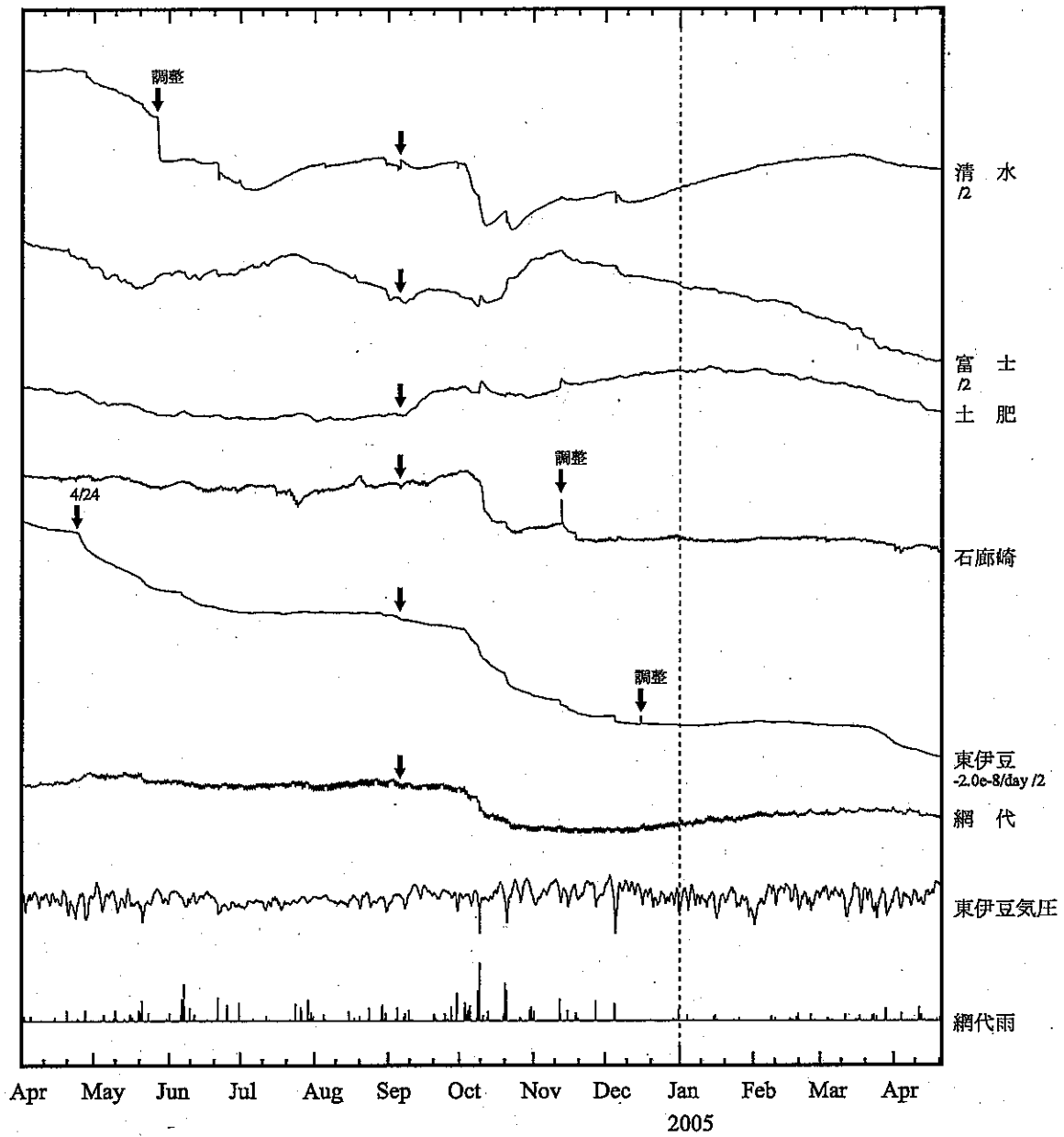
Exp.
↑ 2.0e-07 strain
30 hPa
20 mm



地殻体積歪変化 時間値 (第3区)

・気圧, 潮汐, 降水補正データ

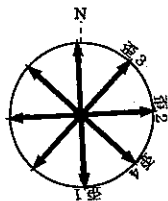
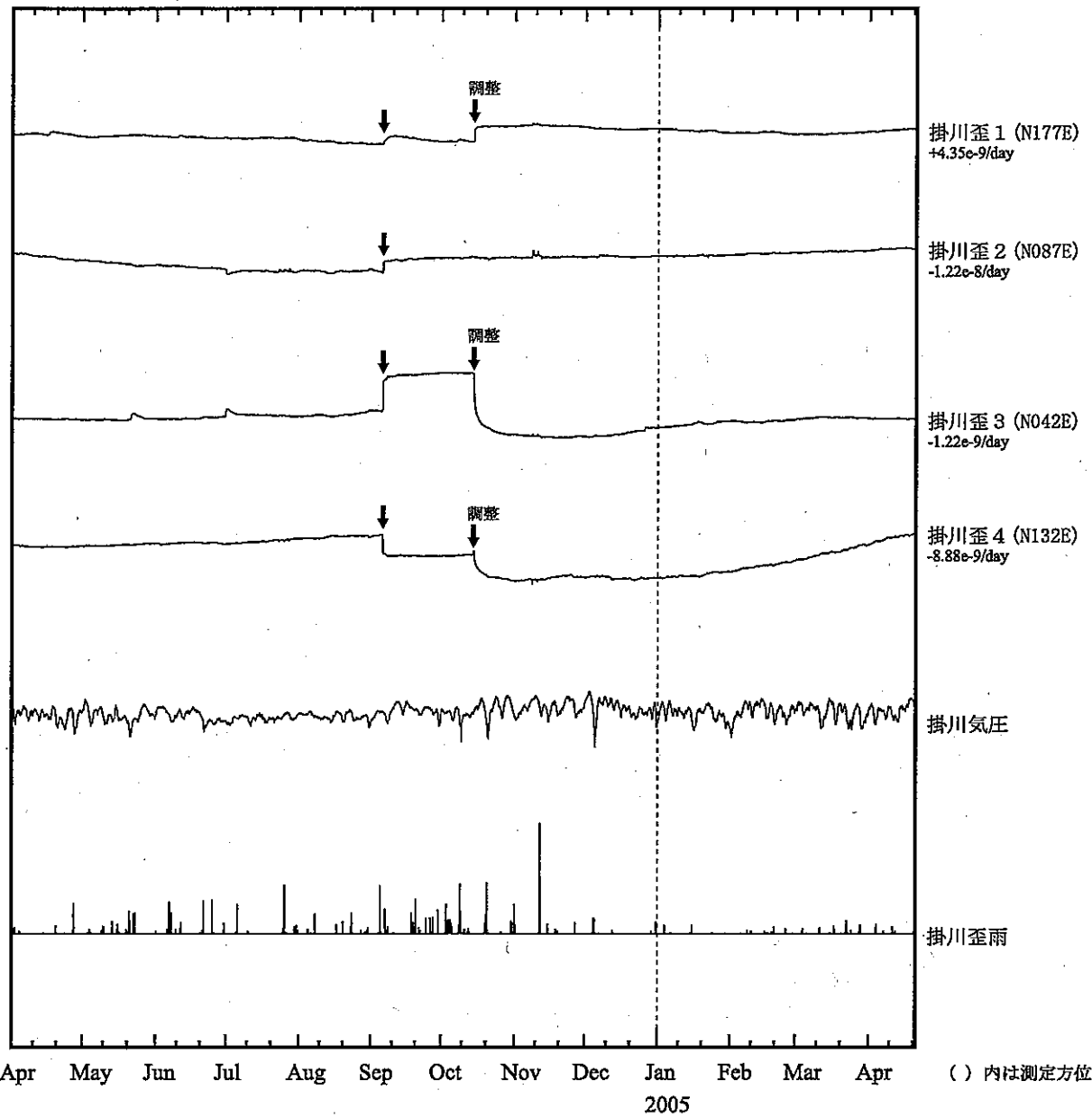
Exp.
↑ 2.0e-07 strain
30 hPa
20 mm



掛川歪変化 時間値

・気圧, 潮汐補正データ

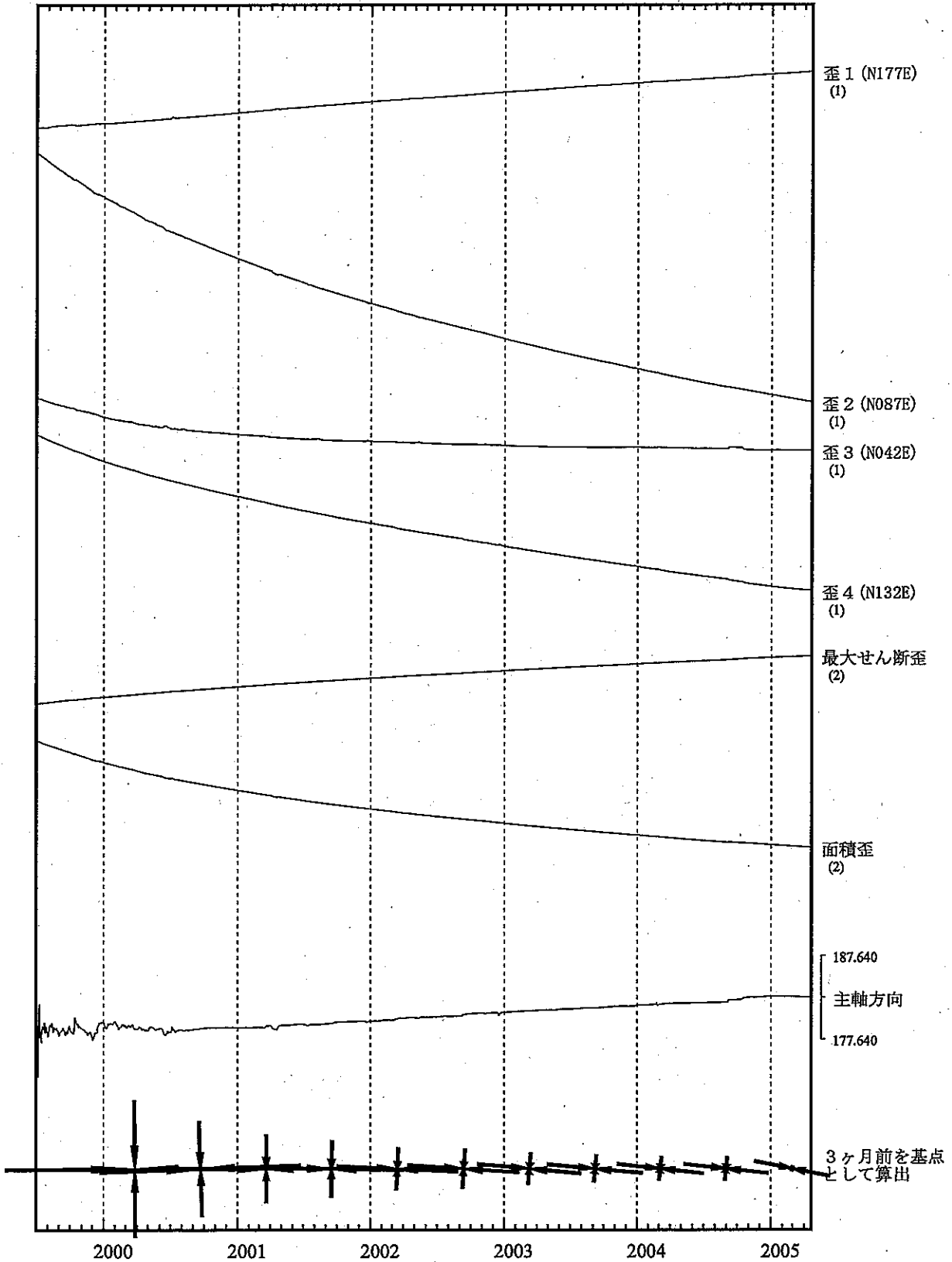
Exp.
↑ 2.0e-07 strain
30 hPa
20 mm/h



掛川歪変化 日値

・最大せん断歪、面積歪および主軸方向は歪1、2、4の各方向成分から
1999年7月1日を基点として算出

Exp.
↑ 5.0e-06 strain (1)
2.0e-05 strain (2)



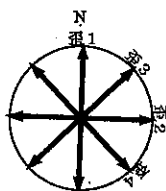
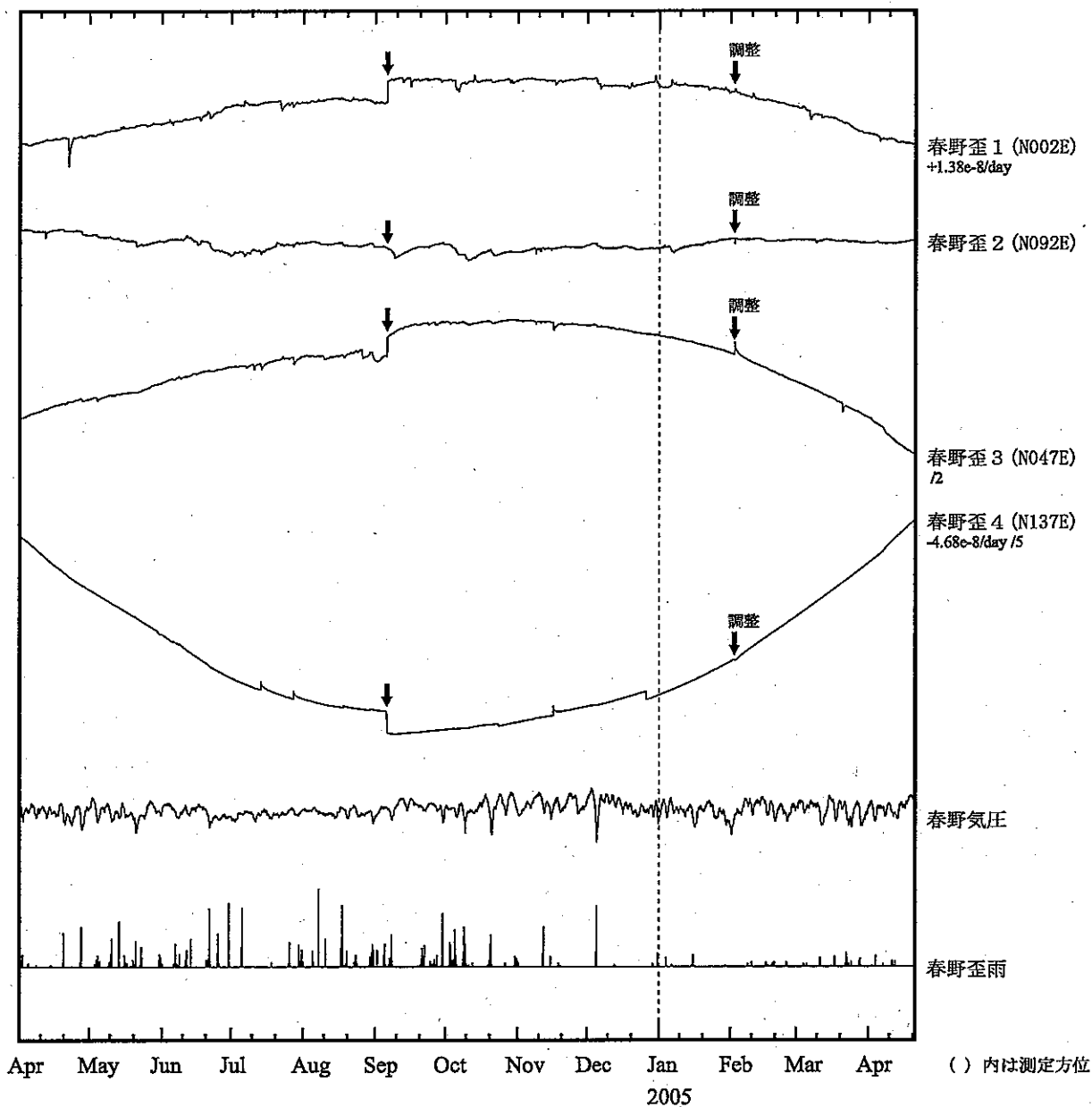
*各成分の括弧付き数字はスケールの番号に対応

→ E 1.0e-06 str.

春野歪変化 時間値

・気圧、潮汐補正データ

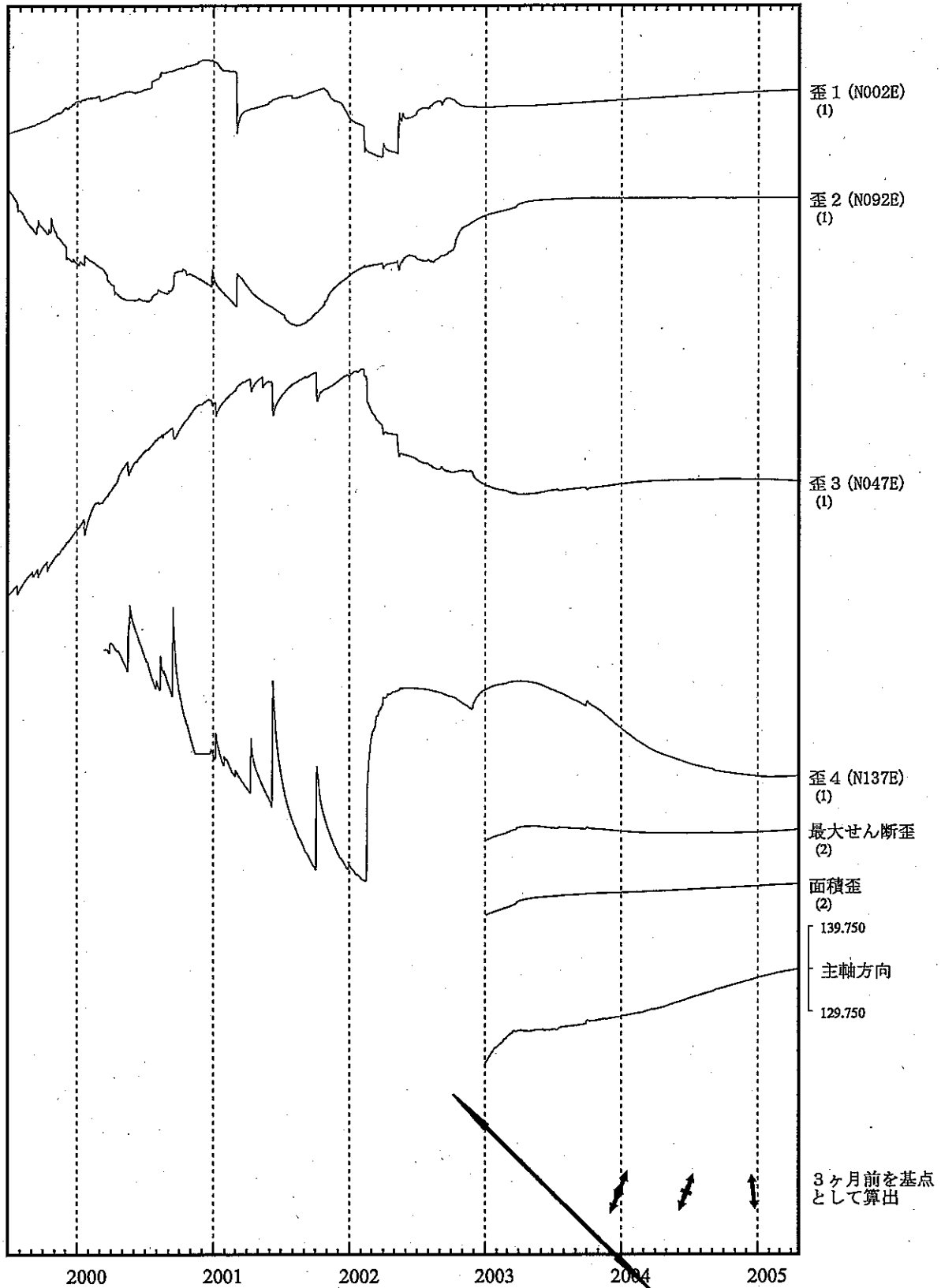
Exp.
 $\uparrow$ 2.0e-07 strain
 30 hPa
 20 mm/h



春野歪変化 日値

・最大せん断歪、面積歪および主軸方向は歪1、2、3の各方向成分から
2003年1月1日を基点として算出

Exp.
↑ 2.0e-05 strain (1)
↑ 2.0e-05 strain (2)

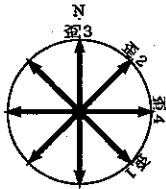
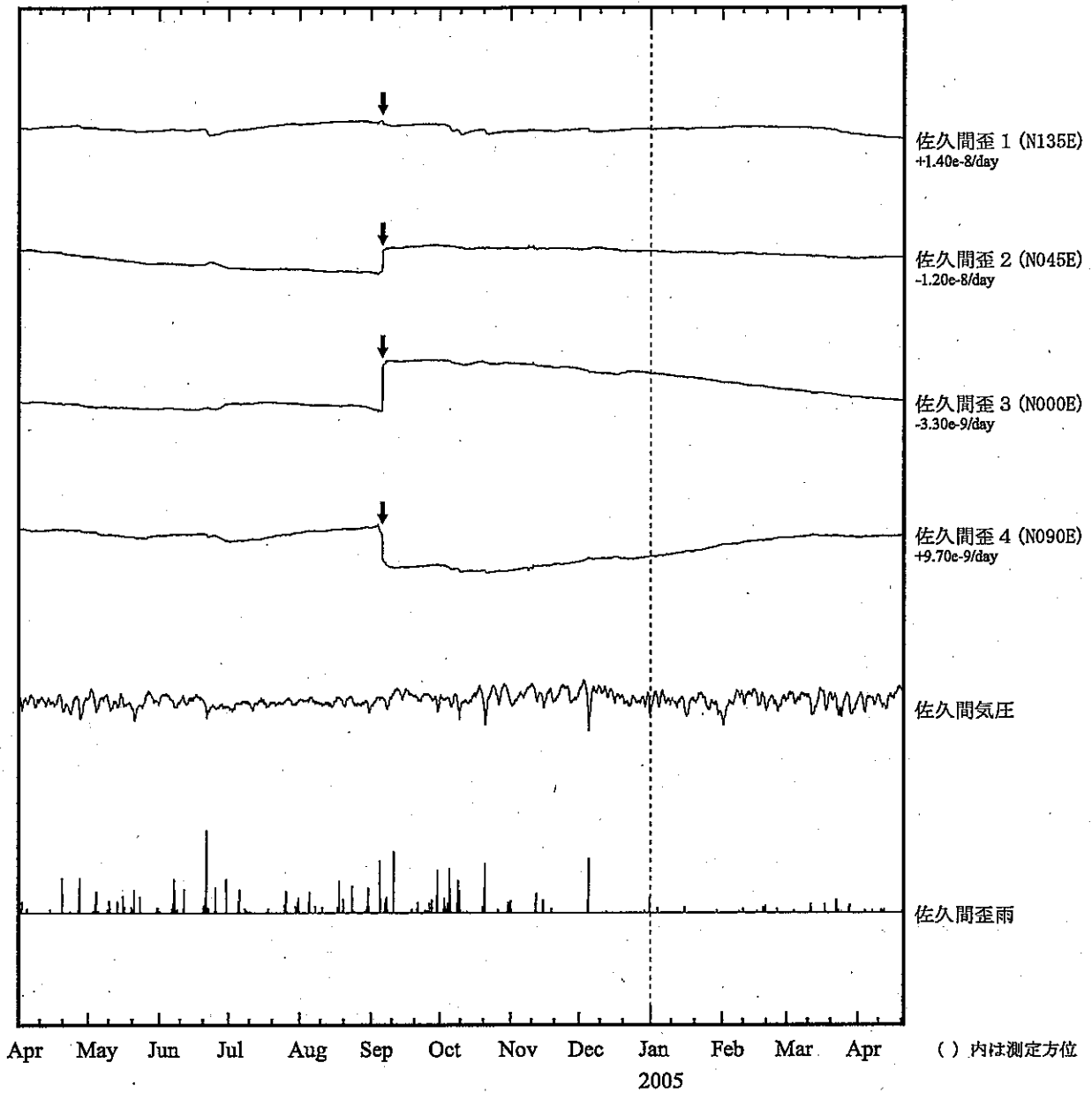


*各成分の括弧付き数字はスケールの番号に対応

→ E 1.0e-06 str.

佐久間歪変化 時間値
・気圧, 潮汐補正データ

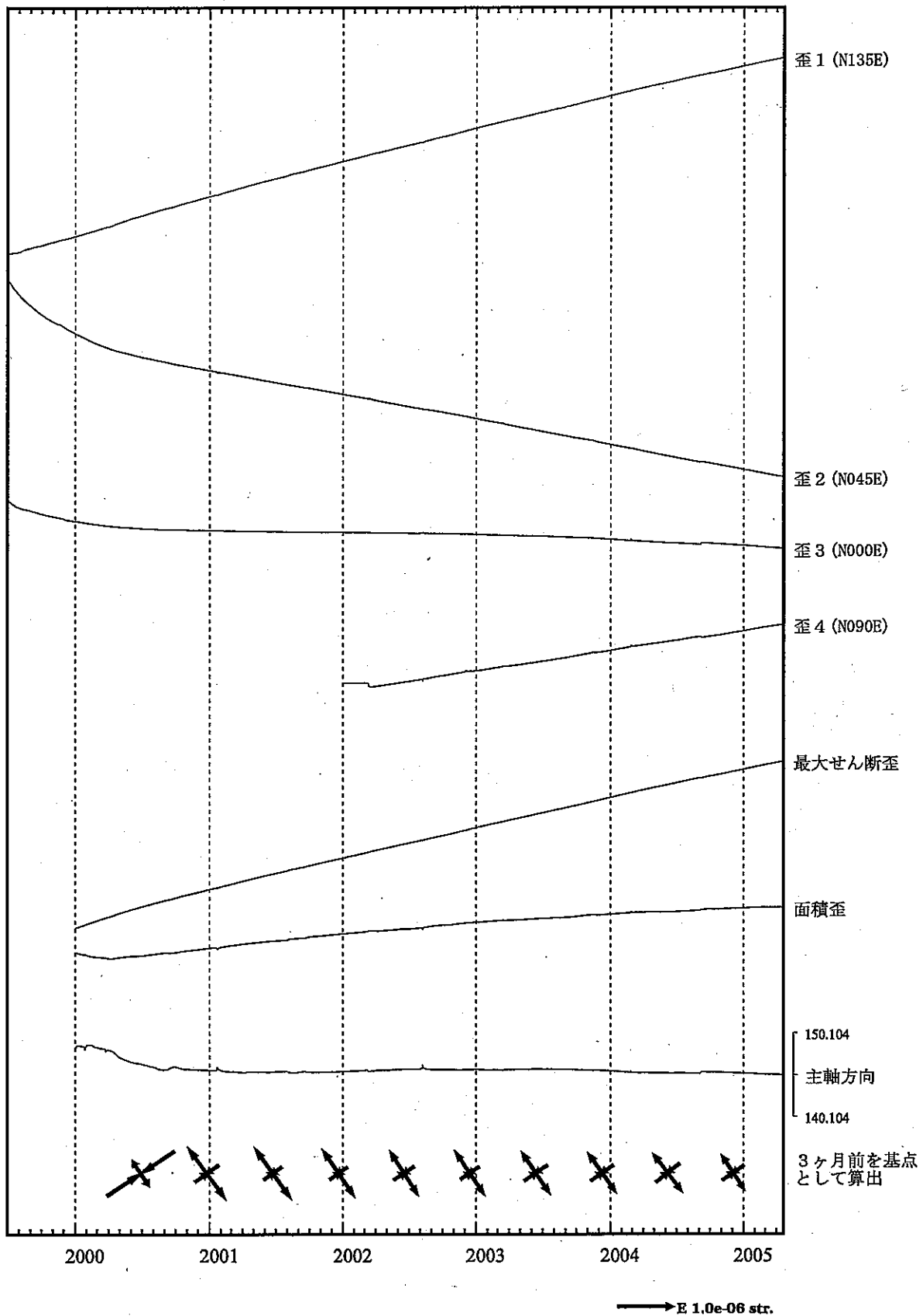
Exp.
↑ 2.0e-07 strain
30 hPa
20 mm/h



佐久間歪変化（日値）

・最大せん断歪、面積歪および主軸方向は歪1、2、3の各方向成分から
2000年1月1日を基点として算出

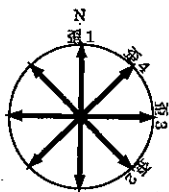
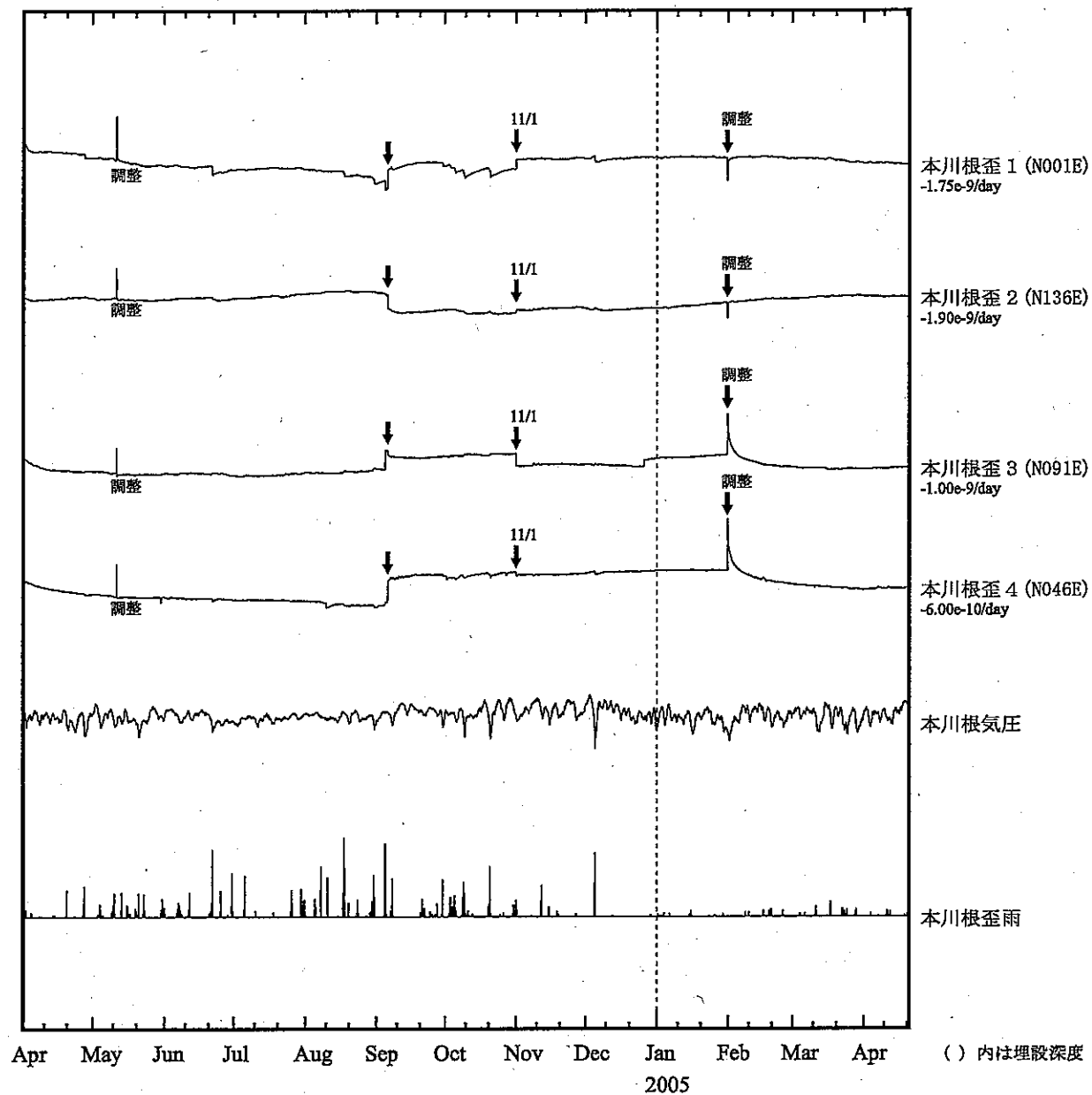
Exp.
↑ 5.0e-06 strain



本川根歪変化 時間値

・気圧, 潮汐補正データ

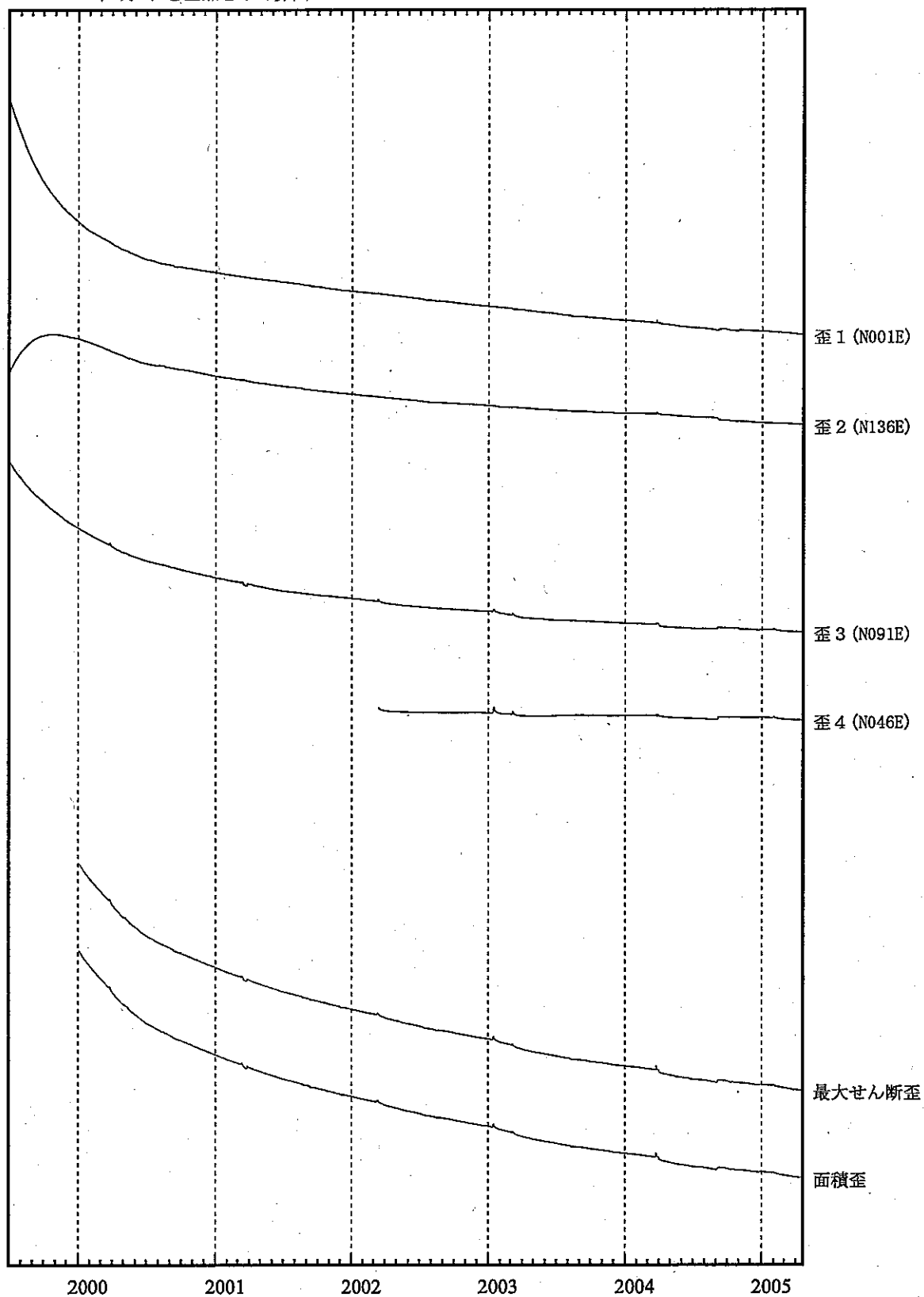
Exp.
↑ 2.0e-07 strain
30 hPa
20 mm/h



本川根歪変化 日値

・最大せん断歪、面積歪および主軸方向は歪1、2、3の各方向成分から
2000年1月1日を基点として算出

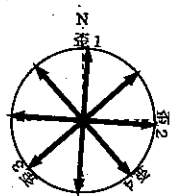
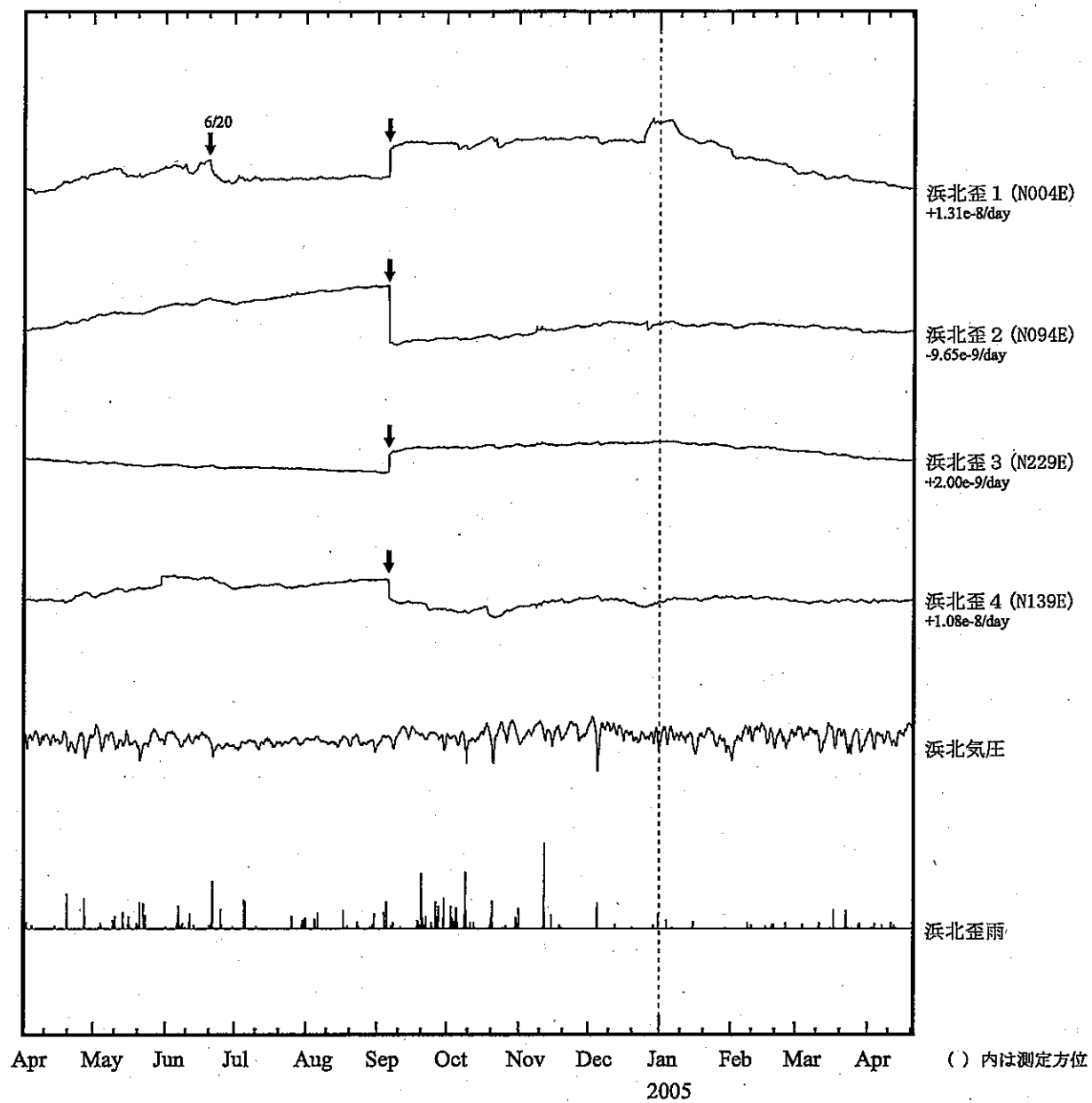
Exp.
↑ 2.0e-06 strain



浜北歪変化 時間値

・気圧, 潮汐補正データ

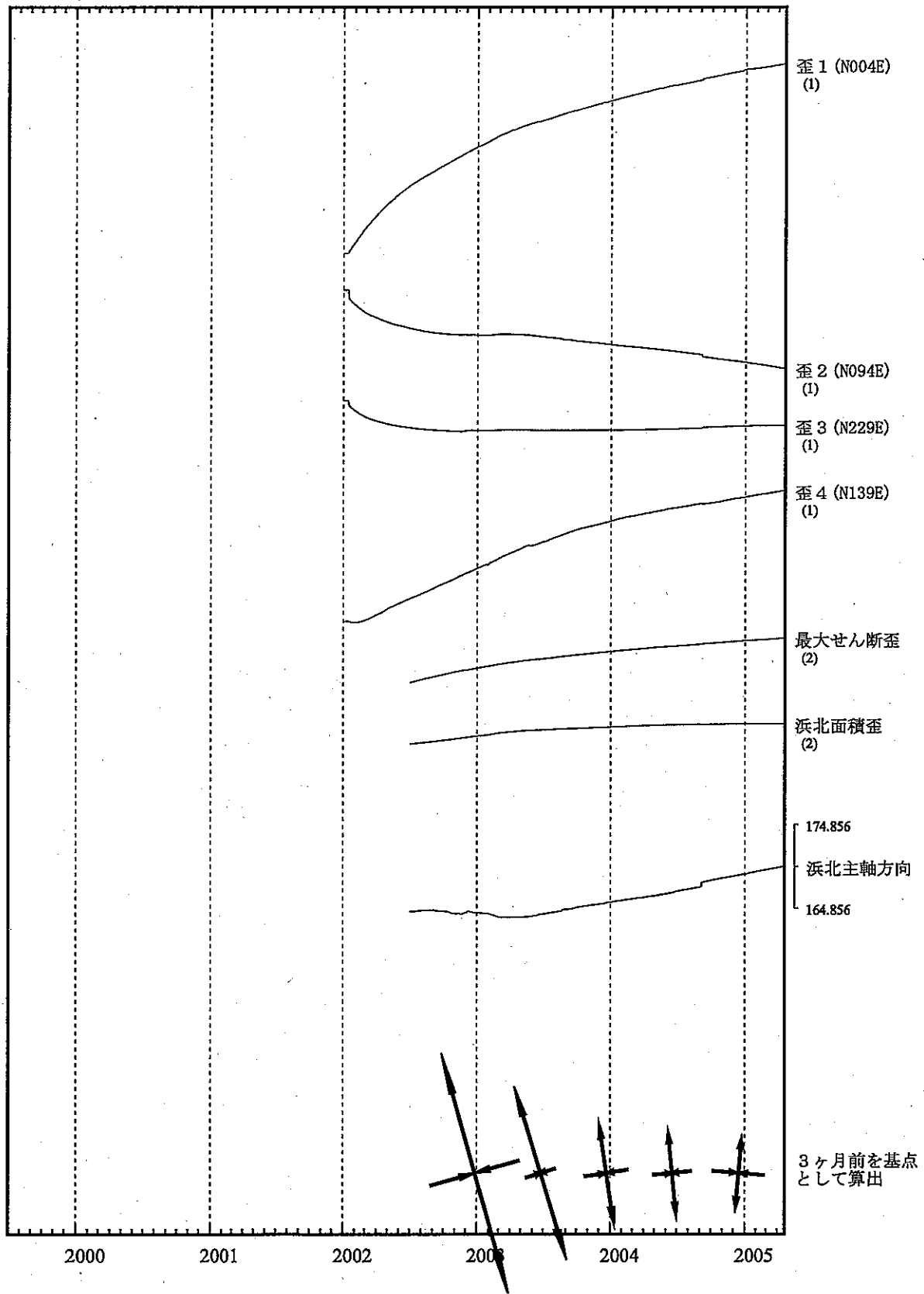
Exp.
 ↑ 2.0e-07 strain
 30 hPa
 20 mm/h



浜北歪変化 日値

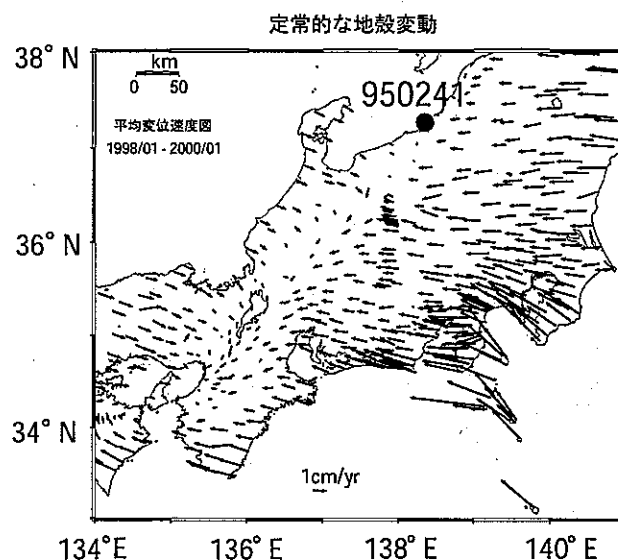
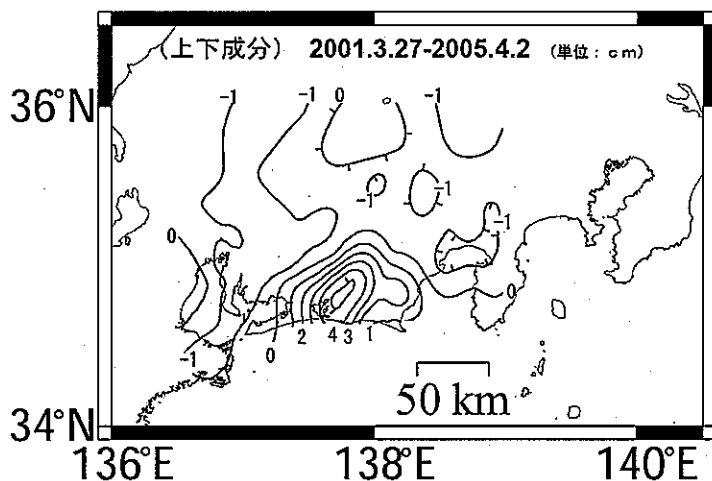
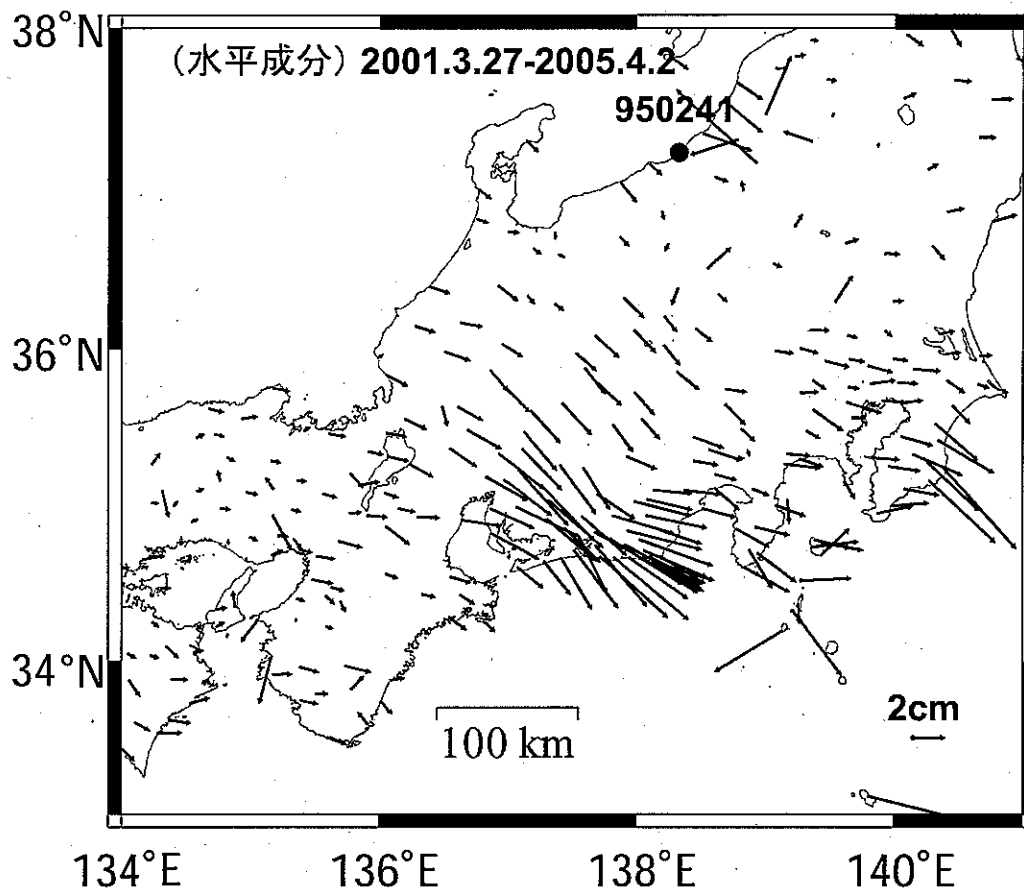
・最大せん断歪、面積歪および主軸方向は歪1、2、3の各方向成分から
2002年7月1日を基点として算出

Exp.
↑ 5.0e-06 strain (1)
2.0e-05 strain (2)

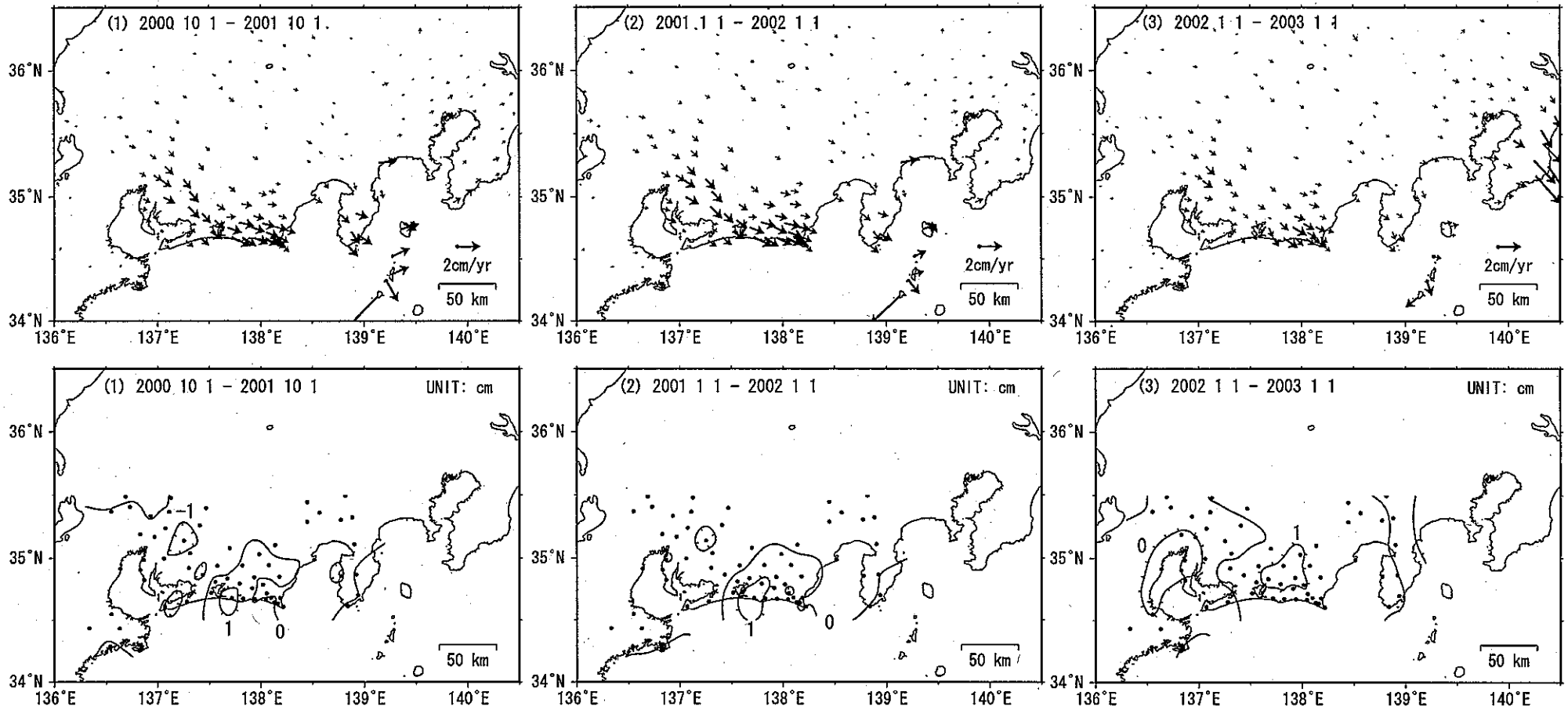


平均的な地殻変動からのずれ（最終解）

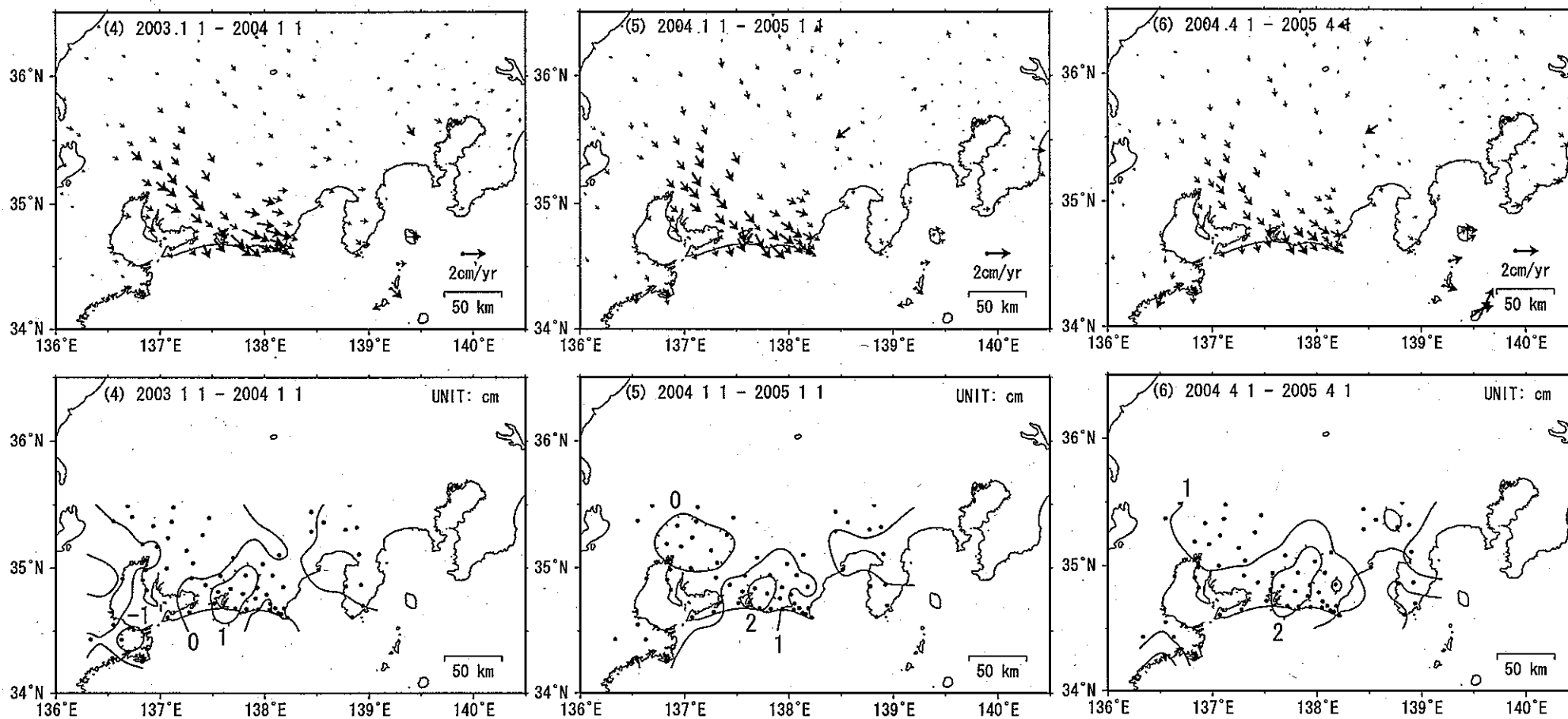
- 平均的な変動として、1998年1月～2000年1月までのデータから平均速度及び年周変化を推定し、時系列データから除去している。
- 2003年以降の上下成分は年周補正を行っていない。
- 2004年9月5日に発生した紀伊半島南東沖の地震および同年10月23日に発生した新潟県中越地震による地殻変動の影響を暫定的に取り除いている。



1 年間で見た東海非定常地殻変動 (1) 大潟固定



1年間で見た東海非定常地殻変動（2）大渦固定



(5) (6) は、2004年9月5日に発生した紀伊半島南東沖の地震および同年10月23日に発生した新潟県中越地震による地殻変動の影響を暫定的に取り除いている。2004年9月～2005年初めのデータに余効変動の影響が含まれると考えられます。